入居者のご家族からお便りをいただきました

今年2月に退所された文子さんは物静かな方でしたが、職員に対して表情を崩し声を出して笑われることもありました。お部屋には、たくさんの写真や洋服、馴染みの家具が置かれ温かみを感じました。

娘さんから、季節の折々にお手紙をいただきましたので、ご紹介します。

八年間という長い歳月を、本当に皆々様にお世話になりました。感謝の言葉しか、思い当たりません。ありがとうございました。

現在九十六歳と五ヶ月、こんなにも母が長く生きてこられたのも、サンシャイン美濃白川のスタッフの方々のお陰です。優しく、親身なお世話のお陰です。

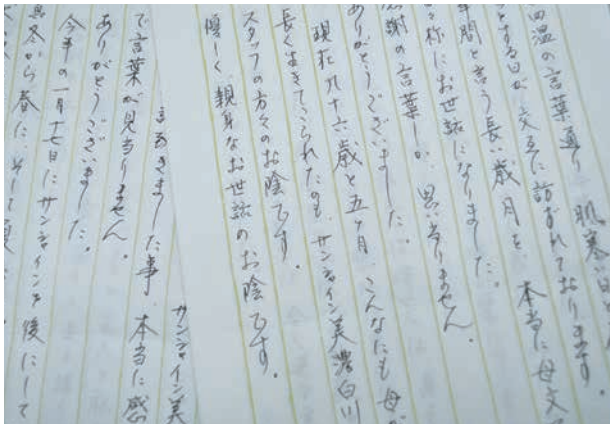
今年の一月十七日、病院に連れて来て頂き、その日の内に入院することになりました。最初は、呼吸も口でして苦しい表情もみかけられましたが、すぐに癒えて日増に楽になりました。早く病院に連れて頂いたお陰でした。

主治医の先生から療養型の病院への転院を強く勧められました。私の思いとは全く逆の方向への勧めに困惑の日々でした。最后は美濃白川のホームでと思っていた私は本当に悩みました。逢方に暮れました。二月七日、転院。不安の中で迎えた転院でしたが、主治医の先生、看護スタッフの方々の親身な対応に、いつしかここで良かったと思えるようになりました。

名古屋に生まれ、大正、昭和、平成と生きて来た母に、私の出来る最后の恩返しと思い病院に通いつめています。

サンシャイン美濃白川の大勢のスタッフの皆様、本当に長い間お世話になりました。施設長様、私の心に寄り添ったお言葉、身に沁みました。

残された日々を母と共に大切に過ごしたいと思っております。



▲お手紙は職員の励みになりました

サンシャイン周辺探訪・名倉ダム①

名倉ダムは、白川町坂ノ東の新津集落と河東の野原集落のあいだを流れる飛騨川に建設されたダムです。ここで取り入れられた水は、河岐にある名倉発電所に送られており、発電所の名がダム名にもなっています。

名倉ダムは、1936（昭和11）年に、当時の東邦電力によって建設され、戦争中は日本発送電、戦後になって中部電力に引き継がれました。

新津集落の「津」には船着き場の意味があります。ダム工事が始まるまでは船頭がいて、対岸の野原と舟で行き来をしていました。ダム建設中には100mほど上流につり橋が架けられ、工事関係者のほか、地元の人たちも利用できました。そうした経緯があるからでしょうか、ダム上部につくられた飛騨川をまたぐ通路の通行が、いまも一般に認められています。

▲建設中の名倉ダム（佐藤真二さん提供）

このダムの水は、名倉発電所に加え、1987（昭和62）年に建設された新上麻生発電所へも送られています。二つの発電所の発電量は、合わせて最大で8万4400キロワット。およそ2万8000世帯分の電力をまかなうことができます。名倉ダムは、堤高が15m未満のため、河川法ではダムに分類されないそうです。地元では、新津の堰堤（えんてい）と呼ばれています。

▲名倉ダム